

2022 年度

金城学院大学 自己点検・評価報告書

金城学院大学 内部質保証推進会議

目次

| | |
|--------------------------------|----------|
| 金城学院大学自己点検・評価報告書について | ----- 3 |
| 凡例 | ----- 4 |
| 金城学院大学内部質保証の方針 | ----- 5 |
| 金城学院中期計画 大学アクションプラン 分掌表 | ----- 7 |
| 金城学院中期計画 大学アクションプラン 2022年度進捗状況 | ----- 10 |
| 2022年度独自計画活動報告 | ----- 20 |
| 2022年度学科・専攻数値目標報告 | ----- 23 |

金城学院大学自己点検・評価報告書について

金城学院大学
学長 小室尚子

この「自己点検・評価報告書」は、「金城学院大学内部質保証の方針」(2019年度策定)に基づき、本学における教育研究の質の向上と社会的責務を果たすべく、学内の各委員会や各部門(以下「各委員会等」)がみずからの活動について点検・評価した報告をまとめたものです。

各委員会等の活動は、その到達期限を定めた「中期計画到達目標」を踏まえて策定された年度活動計画に従って執り行われています。この「中期計画到達目標」は、「金城学院中期計画(2020～2024年度)」(以下、「学院中期計画」)におけるアクションプランに基づいて、定められたものであり、このことは本学における各委員会等の活動が、第一に学院の基本方針に基づくものであることを示すものでもあります。

本学におけるこうした諸活動について、本学では、自己点検・評価を通じた以下のようなPDCAサイクルによって、質保証を行っています。

まず、毎年3月に各委員会等で策定された次年度「活動計画」(Plan)について、金城学院大学内部質保証推進会議(以下「推進会議」)が審議し、改善・向上等の指示を経て、これを承認します。この活動目標に基づき各委員会等で1年間活動を行い(Do)、その結果を2月に「活動報告」として推進会議に提出します。その後、推進会議小委員会による評価・検証と、推進会議での審議を経て(Check)、次年度の活動につなげていきます(Action)。

この推進会議から本学における全学的な教学マネジメントについて付託されているのが金城学院大学教育課程編成会議(以下「編成会議」)です。編成会議は、教学マネジメントに関係する各委員会等とともにPDCAサイクルを展開しており、そのスケジュールは、おおむね推進会議に準じています。こうした編成会議におけるPDCAサイクルの展開については、推進会議への報告とその承認を経ることで、その適切性を担保するようになっていきます。

本学では、こうした推進会議と編成会議を中心とするPDCAサイクルを十分に機能させることを通して、本学の教育研究活動に関する質保証の確立とその充実を目指しています。とりわけ2022年度は、「学院中期計画」(2020～2024)の折り返しとなる年でした。本学では、この「自己点検・評価報告書」を踏まえ、さらなる改善・向上に務めていきたいと考えています。

なお2022年度より、各委員会等における独自計画および数値目標(学科・専攻のみ)についての自己点検・評価も掲載することとしました。各委員会等は、このような「学院中期計画」に基づかない活動計画をも展開することで、さらなる改善・向上に努めています。

凡例

- ・ 本報告書に掲げる「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2022 年度進捗状況」「2022 年度独自計画活動報告」および「2022 年度学科・専攻数値目標報告」は、各委員会等より提出され、推進会議または編成会議において承認された 2021 年度の活動報告に基づき策定された、2022 年度活動計画についての報告である。
- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン」の各項目を担当する部門は「金城学院第 3 期中期計画（2020 年～2024 年度） 大学アクションプラン 分掌表」に記されている。
- ・ 各々の報告は、所掌の会議において、承認されたものであり、これに基づいて各委員会等は、2023 年度の活動計画を策定し、これを実施することとなっている。
- ・ 各々の項目における進捗状況については、その自己評価の内容によって以下の 4 種類の色分けがなされている。

| | |
|---|---|
| 緑 | 学院中期計画に基づく到達目標を達成した場合、または当年度の活動目標を達成した場合 |
| 青 | 学院中期計画に基づく到達目標が予定通りの進捗状況である場合、または当年度の活動目標をある程度達成した場合 |
| 黄 | 学院中期計画に基づく到達目標が予定より進捗状況が遅れているものの進んでいる場合、または当年度の到達目標があまり達成できなかった場合 |
| 赤 | 学院中期計画に基づく到達目標が全く進捗していない場合、または当年度の到達目標が全く達成されなかった場合 |

- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2022 年度進捗状況」および「2022 年度独自計画活動報告」については、活動内容の概要が記されている。ただし、中期計画の進捗に遅滞がある場合、または当年度の到達目標が達成できていない場合は、次年度に向けての改善策を付している。
- ・ 「2022 年度学科・専攻数値目標報告」については、活動内容の概要は記されていない。ただし当年度の数値目標が達成できなかった場合は、次年度に向けての改善策を付している。

金城学院大学内部質保証の方針

2019年11月6日制定

金城学院大学（以下、「本学」という。）は本学の掲げる目標を実現するため、以下の通り、内部質保証の方針を定める。

1 基本的な考え方

- (1) 本学は福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としている。本学が自ら掲げるこれらの目標の実現に向けて、教育研究活動をはじめとする諸活動は、本学の中期計画に基づき行われ、諸活動に携わる組織自らが、自己点検・評価を行い、質の保証とその改善・向上に向けた恒常的な取組みを推進する。

2 組織

- (1) 本学における全学的な内部質保証の取組みは、金城学院大学内部質保証推進会議（以下、「推進会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。
- (2) 内部質保証の内、本学における教学マネジメントに関わる事項は、金城学院大学教育課程編成会議（以下、「編成会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。

3 活動指針

(全学的な内部質保証)

- (1) 推進会議は、本学における内部質保証推進のため、金城学院大学内部質保証推進会議規程に定める活動を行う。
- (2) 学科・専攻及び委員会（以下、「各部門」という。）は、推進会議の定める基本方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、推進会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を推進会議に報告する。推進会議は、各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。

(教学マネジメント)

- (3) 編成会議は、本学における教育の内部質保証推進のため、金城学院大学教育課程編成会議規程に定める活動を行う。
- (4) 学科・専攻及び教育の内部質保証に係る委員会（以下、「教育の内部質保証に係る各部門」）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、教育活動等を実施し、編成会議の定める方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、教育の内部質保証に係る各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、編成会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取り組み、その結果を編成会議に報告する。編成会議は、教育の内部質保証に係る各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。
- (5) 編成会議は、教学マネジメントに関する自己点検・評価を取りまとめて推進会議に報告する。

4 情報公開

- (1) 本学の社会に対する説明責任を果たすために、毎年度の自己点検・評価報告書等の内部質保証の取組みに関する情報を適切に公表する。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 分掌表

| ビジョン | 文言 | 視点 | 項目 | アクションプラン | 主な担当 | |
|----------------|--|-----------------------|--------------------|--------------------------------------|-------------------------|--------|
| 1 教育研究の推進と学習支援 | 学院の使命にあるように、「主を畏れることは知恵の初め」をスクールモットーとし、真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、品格を備えた真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性を育成しなければなりません。また、主体的に学び、行動できる人材、グローバル化の中で、異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材の養成が求められています。本学では、従来から国際理解を持つ自立した女性の育成を行なってきましたが、より一層、この点を意識して推進します。具体的には、 1 福音主義キリスト教に基づいた品格のある女性 2 自ら課題を発見し、解決できる女性 3 国際理解を持つ自立した女性を育成します。そのため、次の視点から検討し、実施します。 | キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進 | 1 キリスト教主義に基づく全人教育 | ① 礼拝出席の奨励 | キリスト教セ | |
| | | | | ② 学生の企画・参加型礼拝の実施 | | |
| | | | | ③ 近隣教会への出席の奨励 | | |
| | | | | ④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備 | | 教務委員会 |
| | | | | ⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実 | | キリスト教セ |
| | | | 2 自ら課題を発見し、解決できるから | ① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進 | 教務委員会 学科 マルチメディアセ | |
| | | | | ② リーダーシップ教育の推進 | 教務委員会 学科 | |
| | | | | ③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進 | 学長室 図書館 | |
| | | | 3 国際理解の教育 | ① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加 | 国際交流セ | |
| | | | | ② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善 | 教務委員会 | |
| | | | | ③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備 | | |
| | | | | ④ 学内環境〔学内掲示〕における多言語化の推進 | 学長室 | |
| | | | 4 研究の推進 | ① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励 | 学長室 | |
| | | | | ② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進 | | |
| | | | | ③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究 | 学長室 | |

| | | | | |
|---------------|-------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| | 学生支援の推進 | 1 教学面での支援 | ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築 | 教務委員会 マルチメディアセ |
| | | | ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立 | 教務委員会 |
| | | | ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善 | |
| | | 2 生活面での支援 | ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実 | 学生生活委員会 |
| | | | ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備 | |
| | | | ③ 学生のマナー向上の推進 | 学生生活委員会 マルチメディアセ |
| | | | ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実 | 国際交流セ |
| | | 学生の受入の推進 | 1 質の高い学生の確保 | ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備 |
| | ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立 | | | |
| | ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討 | | | |
| | | 2 高大連携、接続 | ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充 | 学長室 |
| | | | ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化 | |
| 教学マネジメント体制の推進 | 1 教育体制 | ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用 | 学長室 FD委員会 | |
| | | ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施 | 学長室 | |
| | | ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立 | | |
| | | ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善 | | |

| | | | | | |
|------------|---|-------------|--|--|--------|
| | | | | ⑤ 「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化 | |
| | | | | ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上 | |
| | | | | ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 学科 |
| | | | | ⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上 | FD 委員会 |
| 2 地域社会との共生 | 社会の要請に応じ、産業界や行政等と連携を図りながら、研究や社会連携を行います。また、社会人等に対して生涯にわたる多様な学びの場を提供します。そのため、次の視点から検討し、実施します。 | 研究成果の社会への還元 | | ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進 | 図書館 |
| | | | | ② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元 | 学長室 |
| | | 生涯学習 | | ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践 | 学長室 |
| | | | | ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築 | |
| | | 産学官連携、地域連携 | | ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進 | 学長室 |
| | | | | ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進 | |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|---------------------------------------|------|--------------|--|---------------|----------------|--|
| 1 | 1-1-1-① 礼拝出席の奨励 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | 学生に向けては、上級生の出席を促進させるため教員方の協力体制を強化。教職員に向けては出席率50%を目指し、呼びかけを強化（2020-24） | 4_計画を上回り進んでいる | 2_あまり達成できなかった | 卒業予定者向け礼拝などにおける4年生(薬学6年生)の礼拝出席などを見る限り成果としては今一つであった。更なる呼びかけが必要であるが、教職員の出席は例年並みである。50%という目標値には遠く及ばない。2023年度は引き続きメール配信やmanabaでの呼びかけを積極的に行うとともに呼びかけの方法を検討する。 |
| 2 | 1-1-1-② 学生の企画・参加型礼拝の実施 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | キリスト者学生の協力が不可欠なので、キリスト者学生の発掘と協力体制を強化（2020-24） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 諸行事、礼拝における学生の参加・協力は2021年度以上であった。また、学生と教員との交流の機会が増え、協力体制を強化するうえでの意見交換を行うことができた。 |
| 3 | 1-1-1-③ 近隣教会への出席の奨励 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | 機関紙クロニクルスや金城台上の教会紹介や牧師紹介の欄の充実(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 説教を依頼している教会・牧師から教会案内、行事案内を頂いては、キリスト教センターの掲示板などに置き、学生に周知するべく努めた。幾人かの学生が興味を持ち教会に行きたいと申し出た。 |
| 4 | 1-1-1-④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備 | 編成会議 | 大学教務委員会 | 2025年度の新共通教育科目のカリキュラム改定に向けてキリスト教学関係科目を検証し、検証結果を踏まえて科目を整備する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | キリスト教関係科目の履修者数一覧を作成した。 |
| 5 | 1-1-1-⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | 教員キリスト教セミナーの出席率100%を目指してプログラムを検討改善（2020-24） | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 2020年、2021年とコロナ禍で中止した教員セミナーが再開でき、大きな成果を得ることができた。また、出席率も高く良いプログラムの検討・改善ができた。 |
| 6 | 1-1-1-⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | 教員キリスト教セミナーの出席率100%を目指してプログラムを検討改善（2020-24） | 1_全く進んでいない | 1_全く達成できなかった | コロナ禍で2020年から3年に渡り軽井沢バイブル・キャンプを中止とせざるを得なかったことは誠に遺憾であった。しかしながら、講師の手配を含め事前準備は万端整えてあり、大学、保健センターから許可があれば、いつでも実施できる。2023年度コロナの状況を踏まえながら検討を進めていく。 |
| 7 | 1-1-2-① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進 | 編成会議 | 大学教務委員会 | 本学における能動的な学びを取り入れている科目を調査し、アクティブラーニングを定義し、その上で能動的な学びを強調した全学カリキュラムを構築する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 共通教育科目におけるアクティブラーニングの科目区分別資料を作成した。実施率は34%であった。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|---|------|-------------|--|-------------|------------|--|
| 8 | 1-1-2-② リーダーシップ教育の推進 | 編成会議 | 大学教務委員会 | リーダーシップ教育の推進にむけて、共通教育科目にリーダーシップ教育に関わる科目を設置する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 2023年度より既存科目のキャリア教育開発科目等の授業内で対応することとなった。共通教育委員会で報告した。 |
| 9 | 1-1-2-③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進 | 推進会議 | 学長室 | 学生ニーズに合うAV機器への更新と利用者満足度の向上(2020-22) | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 現在設置されているプロジェクトは古いものである。プロジェクトは部屋を暗くして利用するなど、ラーニング・コモンズでは適さないと判断した。そこで、スマートフォンやMacBookなどからワイヤレス送信できる移動式ディスプレイ式を設置することとし、2023年度の予算申請を行い、完了した。 |
| 10 | 1-1-2-③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進 | 推進会議 | 図書館委員会 | 図書館の利用状況に関する各種データの充実と、それに基づいた図書館の整備と利用の促進。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 対面授業の全面的再開に伴い、入館者数はコロナ以前の状況に近づきつつある。一方、レファレンスの提供など来館を伴わないサービスも引き続き実施しており、館外からのアクセス数は昨年度比で増加している。またdマガジンの導入等、電子書籍の利用促進と利用状況の把握にも努めた。今後も利用者のニーズに応じたハイブリッド型サービスを展開する。 |
| 11 | 1-1-3-① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加 | 推進会議 | 国際交流センター委員会 | 現在、9カ国24大学との交流協定を締結している。2023年度までに、交流協定の締結を10カ国30大学にまで増加させる。(2020-23) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | カナダのナイアガラ・カレッジとの派遣留学協定を新規に締結し、11カ国・地域27大学との協定締結に至った。またフランスのル・アーブル・ノルマンディー大学との新規協定に向けた協議を進めているほか、既存の台湾、アメリカ、カナダ、オーストラリアの協定校との協定改定も行った。受入れ・送出し留学とも再開され、順調に実施されている。 |
| 12 | 1-1-3-② CASECスコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善 | 編成会議 | 大学教務委員会 | CASECスコアの経年変化と現行カリキュラムとの関係を分析・把握し、これをふまえた授業改善案を提示する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 英語基礎力重視を重視した「英語コミュニケーションC(1)(2)」3クラスは、受講者に概ね好評でCASECスコアの伸びが大きく、「授業についていけない」等のこれまでであった問題点は改善されてきている。 |
| 13 | 1-1-3-③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備 | 編成会議 | 大学教務委員会 | 英語および外国語科目の授業について、評価・点検と継続的な改善を実施する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 副専攻プログラムは、TOEICスコアの伸びがきわめて大きく、受講生の声は「有意義であった」が大多数であった。外国語教育科目は、成績調査結果については特段問題は見られなかったが、授業評価アンケートで一部授業のシラバスの機能不全が判明し、全授業担当者にシラバスの実態の洗い直しを求め、再調整を図った。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|--|------|-------------|---|-------------|----------------|--|
| 14 | 1-1-3-④ 学内環境における多言語化の推進 | 推進会議 | 学長室 | 留学生にとってわかり易い学内環境の整備（2020-22） | 1_全く進んでいない | 1_全く達成できなかった | 中間報告から進展なし。なお、学内環境における多言語化の推進の必要性について改めて検討することとした。 |
| 15 | 1-1-4-① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励 | 推進会議 | 学長室 | 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の促進を図る体制の整備（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 競争的外部資金における申請・分担参加の促進に主体的に責任を持つ研究支援事務体制について検討し、研究支援課を新設した。 |
| 16 | 1-1-4-② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進 | 推進会議 | 学長室 | 学内助成や特別研究期間制度の整備や利用を促進する研究推進体制の強化（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 制度利用の促進に主体的に責任を持つ研究支援事務体制について検討し、研究支援課を新設した。 |
| 17 | 1-1-4-③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究 | 推進会議 | 女性みらい研究センター | 女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 社会に向けたオープンリソースとして、本学教員の女性みらいに関する研究や女性のみらいに向けた教育・研究を、ホームページで紹介した。本学学生にむけたリソースの一つとして「女性みらい科目」のテキストを作成した。 |
| 18 | 1-2-1-① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築 | 編成会議 | 大学教務委員会 | マルチメディアセンターと協力し、学修ポートフォリオを有効活用した本学独自の教育体制を構築する。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | アンケート結果を元にマルチメディアセンター委員会で検討した結果「小テスト時間制限機能」を追加することになったため、この機能の予算化を行った。予算が認められれば、次年度は、この機能についてアナウンスを行い、有効活用を促す。 |
| 19 | 1-2-1-② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立 | 編成会議 | 大学教務委員会 | ルーブリックの学生自己評価と取得単位数、GPAとの関連を検討することにより客観的な成績評価を確立する。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 取得単位数とGPAとの関連についての報告書を作成した。報告書は大学教務委員会で共有した。 |
| 20 | 1-2-1-③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善 | 編成会議 | 大学教務委員会 | カリキュラム・マップに示されたDPと学生の履修状況との関連性を検証し、カリキュラム改定に生かせる体制を整備する。（2020-2024） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 2020年度に引き続き2021年度も、科目ごとのDP項目別履修者数を整理し、経年変化を調査した。 |
| 21 | 1-2-2-① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実 | 推進会議 | 大学学生生活委員会 | キャリア支援センターと教員が連携・協力することにより、学生の就職活動に対する課題解決の方法を構築する。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 2023年1月中旬時点で6,626回の面談（延べ数、前年度同期比105%）を実施することができ、年度末に向けて継続中である。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|---|------|----------------|---|-------------------|----------------|--|
| 22 | 1-2-2-② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備 | 推進会議 | 大学学生生活委員会 | クラブ・サークルのボランティア活動に係る支援体制を整え、学生にとって充実したボランティア活動ができるように支援を行う。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 感染症対策のためボランティア活動の奨励はじゅうぶんにできなかったが、活動が停滞するサークル活動への支援は継続的に行い、次年度に備えることができている。 |
| 23 | 1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進 | 推進会議 | 大学学生生活委員会 | 学内および学外における学生のマナーの向上。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 感染症対策に重点を置き、周知と実施に努めてきた。2023年度に見込まれる国等のガイドラインの改定に対応できるよう調整を継続する。 |
| 24 | 1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進 | 推進会議 | マルチメディアセンター委員会 | コンピュータ教室のプリンタ利用と情報発信（メール、SNS等）に関するマナー向上のための対策（2020-22） | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 委員会において、次年度からのカラー印刷に加重したポイント制の実施を決定した。1日50枚を限度とした現状に沿う1日50ポイントを限度とし、モノクロ印刷を1ポイント、カラー印刷を5ポイントとすることで、無用なカラー印刷の削減を図る。 |
| 25 | 1-2-2-④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実 | 推進会議 | 国際交流センター委員会 | 現在、送出し留学生奨学金支給総額の上限が1053万5000円となっている。2023年度までに、送出し留学生奨学金支給総額の上限を2000万円とする。（2020-23） | 2_計画より遅れているが進んでいる | 4_目標を達成した | コロナ禍等の続く中で送り出し留学生の総数は回復途上にあり、計画は遅れているが、韓国・アメリカ・カナダへの送り出し留学生計23名に対し適切な経済支援を実施し、2023年度前期に実施予定の台湾・韓国・アメリカ・カナダへの送出し留学対象者14名に対しても奨学金を配分した。さらに2月と3月の選考において、2023年度後期に出発予定のフランス等への留学の対象者に奨学金配分を行う。 |
| 26 | 1-3-1-① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備 | 推進会議 | 入学センター委員会 | アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜方法の整備（2020-23） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 活動目標（2）及び（3）の完了により、2022年度活動目標は完了した。 |
| 27 | 1-3-1-② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立 | 推進会議 | 入学センター委員会 | 入試種別ごとに「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する方法の確立（2020-23） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 入試種別ごとに課している選抜方法と「学力の3要素」の評価の結びつきを学科ごとに作成し、入学センター委員会で承認したことにより完了した。 |
| 28 | 1-3-1-③ 新たな大学入学者選抜制度に対 | 推進会議 | 入学センター委員会 | 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試体制の整備（2020-24） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 新学習指導要領に基づく入学者選抜方法の公表に向かって、入学センター委員会及び大学入試問題作成委員会において順調に検討 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|--|------|---------|--|---------------|------------|---|
| | 応ずる本学入試の検討 | | | | | | した結果、2023年2月末に大学HP上に公表することで完了する。 |
| 29 | 1-3-2-① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充 | 推進会議 | 学長室 | 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充（2020-24） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 中高大教育協議会を通して、新たに中学生対象の大学見学会の開催、中高生向け学科アピール動画の製作、高校生対象の大学研究室訪問企画、中高生に対するニーズ調査の実施に関する検討を進めた。 |
| 30 | 1-3-2-② 中高“Dignity”ループリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化 | 推進会議 | 学長室 | 中高“Dignity”ループリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化（2020-23） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 2021年度に引き続き2022年度も各学科より提示している研究テーマ並びに文献の確認・更新を行った。また、金城学院高等学校高大接続型推薦入試に関して大学側から出た課題を高校と共有し、2023年度入試に向けて改善策を講じた。 |
| 31 | 1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用 | 推進会議 | 学長室 | 「大学基準」をふまえた内部質保証体制の整備と運用による改善・向上の推進(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 教育課程編成に関わる諮問委員会を設置し、課題の検討をすすめた。総合戦略協議会を開催し、その中間報告を行い、共有を図った。 |
| 32 | 1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用 | 推進会議 | 大学FD委員会 | 内部質保証体制に関する全学的な理解の徹底と各部門内における組織的かつ多面的なFD活動の体制整備(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 内部質保証に関する情報の理解・共有を図るため、3ポリシーに関するFD・SD研修会を開催した。開催形式は対面であったが、オンラインでも視聴できるよう後日講演会の映像をmanabaにアップし、共有を図った。 |
| 33 | 1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用 | 編成会議 | 学長室 | 各部門において金城学院中期計画大学関連項目に基づいた活動計画書を作成する。さらに、中間報告・活動報告を検証し、教育課程編成会議で次年度に向けた改善の指示及び改善結果の確認を行う。2020～2022年度の内部質保証に関わる取り組みの結果を元に教学関連の中期計画の原案を策定し、2025年度以降の内部質保証体制の改善・整備を行う。(2020-24) | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | コアワーキンググループの答申を踏まえ、3ポリシー作業部会を設置し、3ポリシーやカリキュラムのあり方について見直す体制を整えた。 |
| 34 | 1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用 | 編成会議 | 学長室 | 「大学基準」をふまえた内部質保証体制の整備と運用による改善・向上の推進(2020-24) | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 教育課程編成に関わる諮問委員会を設置した。2026年度改訂を目指し、3ポリシーから共通教育カリキュラムまで、大学全体の教育課程編成に関わる課題を整理し、共有を行なった。 |
| 35 | 1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編 | 編成会議 | 学長室 | IR室の分析に基づいて、APに関係する入試状況と、CPやDPに関係する教育課程や学修成果の評価を連動させ、3ポリシーを一体的に検証する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 2022年度については、試行も含めた形で実施することができた。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|---|------|-----------|--|---------------|----------------|--|
| | 成と学修成果の評価の実施 | | | | | | |
| 36 | 1-4-1-③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立 | 編成会議 | 学長室 | DPに基づいた学修目標を具体化し、学修成果についてはエビデンスを基にした情報が各部門に共有され、改善できる体制を構築する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | カリキュラム・マップの可視化を試みた結果、多くの学科で、DPの設定に偏りがみられたため、カリキュラム・マップそのものについて再検討をすすめることとした。 |
| 37 | 1-4-1-④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善 | 編成会議 | 学長室 | アセスメント・ポリシーに示されている各種データを基に経年変化や因果関係を分析する。この結果をもとに学生・各部門への情報提供を行う。また、アセスメント・ポリシーを改善するための基礎資料を作成する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 卒業生アンケートの実施は卒業後3年目とし、その内容・方法について検討を進めている。企業アンケートは、対象・内容について引き続き検討中である。 |
| 38 | 1-4-1-⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化 | 編成会議 | 学長室 | 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を入学時から卒業時まで年2回実施し、その経年変化を分析することで学修成果を可視化する。また、学生に対して自らの成長に関するデータを提供できるシステムを確立する。(2020-24) | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 2019年度生には、自身の結果について受け取れるようにシステムを整備した。学生全体における経年変化については、2022年度中には実施できなかったため、2023年度にこれを実施する。 |
| 39 | 1-4-1-⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上 | 編成会議 | 学長室 | 外部試験(PROGテスト)を入学時を含め在学中2回実施し、経年変化を分析することによって学修成果を可視化する。さらに、他の大学や全国平均との比較分析から、本学の特徴を抽出し、学修目標の改善に生かす。(2020-24) | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 全学のみならず各学部における詳細な経年変化について分析し、その内容を全学・学部FDにおいて共有した。また、PROGテストの内容を理解するため、教員によるトライアル受験を実施することとした。 |
| 40 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 国際情報学科 | 学科DPに対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22) | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 2022年度において、ルーブリックの課題を洗い出し改訂版を作成し、最終年次生全員を対象に評価を実施した。結果、128名の情報を収集した。4年間の経年変化を可視化できる実装可能なルーブリックが完成されたといえる。 |
| 41 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 日本語日本文化学科 | 学科DPに対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22) | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 学科DPに対応したルーブリック（2021年度に学科で評価に適用を試みたものの改訂版）について「卒業論文演習」の中で学生に提示して告知した。また、「卒業論文演習」「卒業論文」の評価において適用した。学科で評価の適応について情報共有し、討議・確認した。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|--|------|----------------|--|-------------------|----------------|---|
| 42 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 英語英米文化学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-22） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 「専門演習(4)」及び「通訳演習 A・B(4)（通訳スキル）、「通訳演習(4)」(翻訳スキル)において、卒業ゼミレポート及び卒業課題の評価のためのルーブリック」を学生に試行提示し、それに基づいて、評価を行った。 |
| 43 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 外国語コミュニケーション学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、昨年度に引き続き4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-22） | 2_計画より遅れているが進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 学科別協議会を経て完成させたルーブリックに基づいたアンケートを、学位授与式後の学科ホームルームにて学生に配布し回答してもらった。集計結果はまだ評価に活用していない。 |
| 44 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 音楽芸術学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-22） | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 「音楽芸術学演習(3)(4)」では、「自分の将来のキャリアを形成するにあたって、音楽芸術の学びをどう活かすか」をディスカッションさせたり個別にレポート提出させたりし、評価の対象とした。 |
| 45 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 生活マネジメント学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-22） | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 「専門演習」と「卒業論文」について、ルーブリックの各項目を点数化し、算術平均して求めた総点などによって合否を評価した。 |
| 46 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 環境デザイン学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-23） | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 卒業研究発表を終了した学生に対し、「卒業研究演習・卒業論文/制作」に基づいた自己評価アンケートを実施し、4年間の経年変化による情報収集を行った。 |
| 47 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 食環境栄養学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする（2020-22）。 | 5_到達目標を達成した | 4_目標を達成した | 「卒業に関わる科目」に関する学科 DP に対応したルーブリックを完成させた。 |
| 48 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立 | 編成会議 | 現代子ども教育学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020-23） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 「卒業に関わる科目」に関する学科 DP に対応したルーブリック改訂版の試行的な評価を学科主任・教務委員・FD委員で成績登録後に実施した。その結果を3者で検討し、課題を明確化した。学科会議において共有し今後について検討した。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通 番 | ビジョン-視点-項目- アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|--------|---|------|----------------|---|-----------------|--------------------|---|
| 49 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関 わる科目のルーブリ ック評価」を用いた学 位授与体制の確立 | 編成会議 | 多元心理学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年 変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020- 22） | 5_到達目標を達成し た | 4_目標を達成した | （2）を行った結果、学科での学びにそぐわない部分があったた め、ルーブリックの修正を行った。 |
| 50 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関 わる科目のルーブリ ック評価」を用いた学 位授与体制の確立 | 編成会議 | 多元心理学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年 変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020- 22） | 5_到達目標を達成し た | 4_目標を達成した | 2020年度版ルーブリックを基に、2022年2月～3月において、 2019年度入学生を対象として卒業にかかわるルーブリック評価を 行った。しかし、今回がルーブリック評価の1回目であったた め、教員によって評価の基準や付け方にばらつきが出たことが判 明し、その付け方のコンセンサスを図った。 |
| 51 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関 わる科目のルーブリ ック評価」を用いた学 位授与体制の確立 | 編成会議 | コミュニティ福 祉学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の経年 変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020- 22） | 3_計画通り進んでい る | 3_目標をある程度達 成できた | 学科 DP に対応したルーブリックを試行し、引き続き使用上の課 題ならびに効果的な使用方法を検討することとした。 |
| 52 | 1-4-1-⑦ 「卒業に関 わる科目のルーブリ ック評価」を用いた学 位授与体制の確立 | 編成会議 | 薬学部薬学科 | 学科 DP に対応したルーブリックを作成し、6年間の経年 変化による可視化の情報収集ができるようにする。（2020- 22） | 5_到達目標を達成し た | 3_目標をある程度達 成できた | 年次進行に従って学生は自身の評価を粛々と行なっている。評価 を始めた学年が未だ卒業年次に到達していないので途中経過とな るが、データは学生が6年間持ち続ける冊子上に書き込んだもの で保存されているため、経過の集計もしやすい方法との併用を今 後検討する。 |
| 53 | 1-4-1-⑧ 定期的な 授業評価の実施と VOX POP の作成・公 表による教育力の向 上 | 編成会議 | 大学FD委員会 | VOX POP において授業評価アンケート結果を適切に公開 し、これをふまえた授業等へのフィードバックができる体 制を確立する。（2020-22） | 5_到達目標を達成し た | 4_目標を達成した | 大学教務委員会で質問項目を精査し、授業へフィードバックする 体制を確立した。 K-port を利用して授業評価アンケートを実 施し、その結果を、FD 委員会で報告するとともに、大学HPで 公表することとした。 VOX POP のレイアウトについても修正 を行い、2023年度公開の準備が整った。 |
| 54 | 2-1-① 教育・研究活 動成果物のリポジト リ等を活用した発信 のいっそうの促進 | 推進会議 | 図書館委員会 | リポジトリの管理運営の適正な実施。（2020-24） | 3_計画通り進んでい る | 3_目標をある程度達 成できた | 国立情報学研究所のリポジトリの新システム移行が数度に渡って 遅れているため、詳細について情報の収集にあたった。今後も引 き続き情報を収集し、管理システムの更新が行われ次第、移行を はさんで管理運営の実態を改めて記録し、管理運営上の問題点の 把握に努める。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通番 | ビジョン-視点-項目-アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|----|--|------|---------------|---|---------------|----------------|--|
| 55 | 2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元 | 推進会議 | 心理臨床相談室 | 女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24） | 4_計画を上回り進んでいる | 4_目標を達成した | 感染拡大状況の変化に合わせ、電話相談、web相談を随時活用し、地域社会に貢献した。相談員による事例研究は、関係機関交流会、SC研究会、コラージュ療法研究会を実施することができ、若手の会で実施予定である。さらに、保育園・幼稚園の巡回指導についても相互研鑽しあう機会を設定し、力量ある心理職の育成に貢献することができた。 |
| 56 | 2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元 | 推進会議 | KIDSセンター | 女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | 年度を通してあそびの広場・個別相談・音楽療法などの多面的な子育て支援を継続的に実施し、一定の当年度活動目標を達成することができた。利用者や地域のニーズに関する情報収集を継続的にを行い、質の高い子育て支援・地域貢献を今後も行っていく。 |
| 57 | 2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元開発と実践 | 推進会議 | 女性みらい研究センター | 女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 3_目標をある程度達成できた | IR室の協力を得て女性に関する基礎研究のデータの解析が終了した。地域社会に還元するためのリソースの体制の構築を検討した。 |
| 58 | 2-2-① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践 | 推進会議 | 女性みらい研究センター | 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践ができるシステムの構築（2020-24） | 1_全く進んでいない | 1_全く達成できなかった | 対面による生涯学習プログラムの企画運営が不可能であったため延期した。今後は、COVID-19等の感染症蔓延下においても対面での講座運営に対応できるように、生涯学習に関わるプログラムの開発と実践について方法を検討する。 |
| 59 | 2-2-② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築 | 推進会議 | 学長室 | 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 金城学院アプリや大学公式Instagramなどを用いて卒業生との密な関係構築に資する情報発信を継続的に行った。 |
| 60 | 2-2-② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築 | 推進会議 | 生活環境学部自己評価委員会 | 家政学部・生活環境学部同窓会「野のはな」の活動の活性化と恒常的な協議体制の整備。（2020-23） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 3月1日（水）昼休みに「野のはな」執行部と4年生同窓会幹事（各学科4名＝全12名）の昼食懇談会を実施した。執行部、及び学部長より同窓会活動への積極的な参加をお願いした。また、同窓会活動活性化のための方策について意見交換した。 |

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2022年度進捗状況

—2023年03月01日内部質保証推進会議承認・2023年05月10日教育課程編成会議承認—

| 通 番 | ビジョン-視点-項目- アクションプラン | 所管会議 | 部門 | 到達目標（実施期間） | 計画進捗状況 | 2022年度到達状況 | 2022年度活動概要 |
|--------|--|------|---------------|---|-------------|------------|---|
| 61 | 2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進 | 推進会議 | 学長室 | 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携を推進する全学的体制の整備（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 基本方針を実現性あるものとするため、地域連携の推進に主体的に責任を持つ体制について検討し、総務部総務課を担当事務部署とした。 |
| 62 | 2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進 | 推進会議 | 生活環境学部自己評価委員会 | 企業、団体、地方公共団体との連携のための恒常的な協議体制の構築と運用。（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 11月9日（水）教授会後にFD報告会を実施し、各学科が取り組んでいる地域・社会貢献活動の報告を受け、情報を共有した。引き続き質疑や意見交換を行ない、各学科の今後の活動に生かしていくこととした。 |
| 63 | 2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進 | 推進会議 | 薬学部自己評価委員会 | 学会活動、薬剤師活動、地方自治体、地域活動への協力（2021-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 薬学会などの学会活動、薬剤師会及び病院薬剤師会、薬剤師の生涯教育、地方自治体、地域活動への協力等をコロナ禍以前にほぼもどった水準で継続的に実施できる体制が整いつつある。さらに、愛知県の新型コロナワクチン接種への協力も年間を通じて行った。(110文字) |
| 64 | 2-3-② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進 | 推進会議 | 学長室 | 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進（2020-24） | 3_計画通り進んでいる | 4_目標を達成した | 整理された過去の産学官連携の協定実績を学内で共有し、守山区との連携活動の推進に主体的に責任を持つ体制について検討し、総務部総務課を担当事務部署とした。 |

2022 年度独自計画活動報告

—2023 年 03 月 01 日内部質保証推進会議承認・2023 年 05 月 10 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

| 通 番 | 所管会議 | 部門 | 当年度活動目標 | 2022 年度到達状況 | 2022 年度活動概要 |
|--------|------|--------------|--|----------------|--|
| 65 | 推進会議 | 学長室 | 少子化、新型コロナウイルス感染による海外研修制度自粛などのマイナス要因を踏まえ、本学の入試について方向性を検討する。 | 4_目標を達成した | 「入学者確保戦略検討諮問委員会」の答申を踏まえ、入学者確保に向けて対応策の検討を行い、外国語・国際系学科の入学者確保を目指す「グローバルサイト」の開設等、22 の企画におよぶアクションプランを策定した。 |
| 66 | 推進会議 | 学長室 | 入学前教育の充実を図るため、教育課程編成会議が中心となって検討を進める。 | 4_目標を達成した | 入学前教育の充実に向けて、学科で検討を行い、教育課程編成会議で共有した。2023 年度入学者に向けて全学的な入学前教育プログラムの強化を行うことができた。 |
| 67 | 推進会議 | 大学学生生活委員会 | 看護学部の学生支援体制を構築し、学部学生生活委員会とともに新生にむけた各種の情報提供と助言（教員が担うべき学生支援の課題と制度、各種オリエンテーションのあり方、長期休暇前後の注意事項など）を一年を通して行う。 | 4_目標を達成した | 学科学生のサークル設立（コミュニケーション能力の育成、地域住民との交流を通して健康支援活動を行う等を目的とする）をサポート、学生支援にかんする意識の共有等、新学部としての諸課題に取り組むことができた。 |
| 68 | 推進会議 | 大学学生生活委員会 | 学科ごとに異なるアドバイザー制度の実状（割り当てや面談の実施方法など）を調査し、必要に応じた改善策（より効果的な方法の奨励、学科の実状に沿った制度の見直しなど）を検討するための基本的情報を整理する。 | 3_目標をある程度達成できた | 学部学生生活委員会ごとにアドバイザーからの情報収集と相談、助言に努め、今年度の制度改変に対応した。学部、学科ごとのアドバイザー制度の違いについては、すぐさま全学的に統一することはできず、まずは学部ごとに取り組む課題とした。 |
| 69 | 推進会議 | 図書館委員会 | 新型コロナウイルス感染症の影響に対応しつつ、学生自身による図書館利活用の取り組みとして、図書館学生ボランティア Lilian の学内・学外における諸活動の支援を強化する。(2020-22) | 4_目標を達成した | 今年度はコロナで中断していた学生ボランティア同士の対面交流の再開、対外活動の多様化（対面・リモート・ハイブリッド）への対応に関して職員が全面的にサポートし、学生を主体とする選書会、学生協働フェスタ東海 in 2022、大学コンソーシアムセとビブリオバトル、大学祭におけるイベントを実施することができた。また、名古屋市志段味図書館、金城学院高等学校メディアライブラリーとの連携によるイベントも実施することができた。 |
| 70 | 推進会議 | キリスト教センター委員会 | 礼拝、イベントの動画作成、編集を国際情報学部メディアスタディーズコースの学生に依頼し、広報活動を行う（継続） | 4_目標を達成した | とても素晴らしくクリスマス・ツリー点灯式、クリスマス礼拝となり、それらを撮影したメディアスタディーズの学生の動画は美しい作品となった。キリスト教センターHP 参照。 |
| 71 | 推進会議 | 国際交流センター委員会 | 受け入れ留学生以外で日本語教育支援を必要とする学生が、定められた日本語科目を受講できるシステムの運営を軌道に乗せる。 | 4_目標を達成した | アンケートを実施したが、今年度は日本語教育支援を必要とする新規の該当者はなかった。次年度も引き続きアンケートを実施し、該当者がいた場合には適切な日本語科目の受講に向けて調整を行う。 |

2022 年度独自計画活動報告

—2023 年 03 月 01 日内部質保証推進会議承認・2023 年 05 月 10 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

| 通番 | 所管会議 | 部門 | 当年度活動目標 | 2022 年度到達状況 | 2022 年度活動概要 |
|----|------|----------------|---|----------------|--|
| 72 | 推進会議 | マルチメディアセンター委員会 | 授業サポートおよび学生サポートの充実に向け、勉強会・研修会等を随時実施することで TA・SA の業務への問題意識を高めると共にスキルアップを図る。 | 3_目標をある程度達成できた | ①新設したラーニング・コモンズでの学生対応が徐々に認知されてきた。②業務日報により自らの課題と目標の設定を意識付けた。③TA・SA を講師とする学生スタッフ向け勉強会を行った。④9 月に TA・SA 研修会を、1 月に全体ミーティングを実施した。次年度は TA・SA 共に、ラーニング・コモンズでの学生対応をさらに充実させたい。 |
| 73 | 推進会議 | 文学部自己評価委員会 | 研究的FD活動として、文学部教員による研究成果を共有する機会を設け、研究活動の活性化を図る。教育的FD活動として、公正な成績評価をテーマとした研修会を開催する。 | 4_目標を達成した | 研究的活動として、2月17日にFD研修会で飯田真樹教授の「和音の歴史と私の研究課題」を実施する。 |
| 74 | 編成会議 | 外国語コミュニケーション学科 | 国際交流において、徐々に海外渡航が再開されていくことが予想できるため、渡航プログラムと遠隔プログラムの関係を検討し、より有効な形を模索する。 | 4_目標を達成した | フランス語研修には4名が参加し、トゥーレーヌ学院にて研修を受けた。台湾研修には3年生10名が参加し、国立台湾師範大学付属国語教学センターにて、約3週間の研修を受けた。2023年8月の研修に向けた準備も進めている。渡航プログラムと遠隔プログラムの関係を検討でき、有効なプログラムを実施するという目標が達成できた。 |
| 75 | 編成会議 | 生活マネジメント学科 | 新カリキュラム（2021年度施行）の円滑な運営を行う。（2021-2024）新カリキュラム（2年目）の円滑な運営を行う。 | 4_目標を達成した | 学科の特徴に基づく効果的な教育の実施を目指した新カリキュラム（2年目）の円滑な運営を行った。 |
| 76 | 編成会議 | 食環境栄養学科 | 国家資格である管理栄養士の資格課程に対応した新カリキュラムの円滑な運営を行う。 | 3_目標をある程度達成できた | 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムと現行のカリキュラムの比較を行い、大きく乖離のないことを確認した。管理栄養士養成に求められる変化に応じた微調整を繰り返しながら運営している。 |
| 77 | 編成会議 | 現代子ども教育学科 | 2022年3月に作成した「業務の改善策」を着実に実施し、2023年度から始まる新教職課程への移行を円滑に進めるための準備を行う。 | 4_目標を達成した | 年度当初より「免許資格部会」、「免許資格連絡協議会」等を組織し、「業務の改善策」を実行した。学科全体で2023年度から始まる新教職課程への移行の準備を着実に進めることができた。今後も組織が有益に働くよう適切に改善しながら、新教育課程への移行を進めていく。 |
| 78 | 編成会議 | 多元心理学科 | 人とコミュニケーションをとり、そのことを通して、自分を知り、他者を知るという多元心理学科の目標の基礎となるように、高大接続入試、指定校推薦入試合格者を対象に、入学前プログラムとして課す課題とその実施方法を検討する。 | 4_目標を達成した | 指定校推薦合格者35名および金城学院高校からの12名合わせて47名に対して、推薦図書リストを送り、レポート執筆を課した。概ねしっかりと課題図書を読み、自分の考えや意見を述べられて |

2022 年度独自計画活動報告

—2023 年 03 月 01 日内部質保証推進会議承認・2023 年 05 月 10 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

| 通番 | 所管会議 | 部門 | 当年度活動目標 | 2022 年度到達状況 | 2022 年度活動概要 |
|----|------|------------|--|----------------|--|
| | | | | | いた。それに対し、教員からもコメントを書き返した。これをこれからも行っていきたい |
| 79 | 編成会議 | 多元心理学科 | 国家資格である公認心理師の資格課程に対応した新カリキュラムの実施に伴い、進路として類似する精神保健福祉士の志望者と競合するという問題が生じている。コロナ禍で十分なオリエンテーション等の周知が出来なかったこともあるが、ユニット分けについて、今後のあり方を検討したい。 | 3_目標をある程度達成できた | オリエンテーションや説明会においてユニット分けの方法や資格取得について対面で十分な説明を行った結果、精神保健福祉士のコースを取る学生数が増加した。しかし、ユニット分けやコース選択の際に一部の学生より質問があがった。ユニット分けは一部を除いて成績にはよらないこと、資格のコースを取るための条件など、より明確な説明をしていくことを心掛けた。 |
| 80 | 編成会議 | コミュニティ福祉学科 | ソーシャルウーマンプロジェクトとソーシャルワーカー養成カリキュラムを中核としながら、特に社会福祉士及び介護福祉士法改正に伴う新規・変更科目への対応を適切に行う。 | 3_目標をある程度達成できた | コロナ禍を考慮しつつ、ソーシャルウーマンプロジェクトは地域の企業等との連携プログラムに取り組んだ。また、社会福祉士の相談援助実習（旧カリキュラム）は時期を変更するなどして実施し、導入実習（新カリキュラム）も実習先施設と期間や内容を適宜調整して行った。 |
| 81 | 編成会議 | 薬学部薬学科 | 自律学修できる医療人を目指した教育の実践として、問題解決型の授業や、春期及び夏期の休暇時における課題の実施、学生自治活動の支援等によって自律学修能力を強化する。 | 4_目標を達成した | コロナ禍により利用制限していた自習室も開放するなど制限を徐々に解除、問題解決型授業も担当教員の工夫によりコロナ禍以前の水準に戻しつつも実施、さらに、学生会の自主的な活動も後援しながら自律学習能力の強化策を進めた。 |
| 82 | 編成会議 | 薬学部薬学科 | 薬剤師会等の関係諸機関および愛知県内薬学部との連携をより強化し、実務実習の実施の円滑化への協力を実践する。 | 4_目標を達成した | 東海地区調整機構の本部当番校として実務実習の実施の円滑化に貢献でき、次の当番校への引き継ぎを行った。また、例年通り各大学、各県薬剤師会、各県病院薬剤師会と連携をとりながら、実務実習の実施にあたり、2022 年度の実習を無事終えることができた。 |

2022 年度学科・専攻数値目標報告

(教育課程編成会議 2023 年 05 月 10 日承認)

| 通 番 | 部門 | 数値目標の項目 | 数値目標 | 結果 | 自己評価 | 次年度に向けての改善策等 |
|--------|-------------------|--|--|--|---------------|---|
| 1 | 文学部日本語日本文化学科 | 大学院や他大学への進学 | 2 名 | 3 名 | 3_目標を上回って達成した | |
| 2 | 文学部日本語日本文化学科 | 中高教員試験合格者 | 1 名 | 2 名 | 3_目標を上回って達成した | |
| 3 | 文学部日本語日本文化学科 | 司書及び学芸員等への採用 | 1 名 | 1 名 | 3_目標を上回って達成した | |
| 4 | 文学部日本語日本文化学科 | 日本文化に関する専門分野への採用 | 3 名 | 3 名 | 3_目標を上回って達成した | |
| 5 | 文学部英語英米文化学科 | 4 年次 12 月の TOEIC L&R (コロナ禍のため 12 月にオンラインで実施) | 900 点以上 2 名 800 点以上 10%、 700 点以上 20% | 900 点以上 6 名 800 点以上 27%、 700 点以上 47% | 3_目標を上回って達成した | |
| 6 | 文学部英語英米文化学科 | 英語を活かした職業への採用 | 22 名以上 | 20 名 | 3_目標を上回って達成した | 2020 年度から引き続いて、コロナ禍の影響によりエアラインの募集が少なかったことが一因であると推察される。次年度はエアラインをはじめ、英語を活かした職業について、積極的に情報提供し、応募を促す。 |
| 7 | 文学部英語英米文化学科 | 大学院への進学 | 3 名 | 1 名 | 3_目標を上回って達成した | 説明会等の広報活動を通して大学院進学の魅力をこれまで以上に積極的に伝えていく。 |
| 8 | 文学部英語英米文化学科 | 英語スペシャリスト養成プログラム 在籍者 26 名のうち TOEIC L&R (※「英語スペシャリスト養成プログラム在籍者」数は休学留学などにより、活動計画提出時から活動報告提出時までの期間で人数が増減することがある。) | 900 点以上 3 名 800 点以上 60% | TOEIC L&R の 900 点以上 9 名 800 点以上 85% | 3_目標を上回って達成した | |
| 9 | 文学部英語英米文化学科 | 英語スペシャリスト養成プログラム 在籍者 26 名のうち TOEIC S&W (スピーキング) | レベル 7 以上 2 名 レベル 6 以上 75% | レベル 7 以上 7 名 レベル 6 以上 73% | 3_目標を上回って達成した | 留学に行っており受験不足・未受験である学生を除き (23 名) 計算すると、レベル 6 以上が 78%となり、目標を達成できたことになる。コロナ禍により、留学時期が例年と異なったことが影響した。今後、コロナ禍などの不可抗力で留学の時期がずれるようなことが起きた場合、留学中に現地で受験するように勧めるなどの対策を講じたい。 |
| 10 | 文学部外国語コミュニケーション学科 | [卒業時] 中国語検定・実用フランス語検定・ドイツ語技能検定 2 級合格者 | 8 名 | 0 名 | 1_目標を達成できなかった | 語学研修を再開するとともに検定対策を強化する。 |
| 11 | 文学部外国語コミュニケーション学科 | [卒業時]TOEIC495 点以上の割合 | 35% | 37% | 3_目標を上回って達成した | |
| 12 | 文学部音楽芸術学科 | 専門職への採用・専門分野への進学 | 10 名 | 20 名 | 2_目標を達成した | |
| 13 | 文学部音楽芸術学科 | ヤマハグレード試験合格者数 | 20 名 | 25 名 | 2_目標を達成した | |

2022 年度学科・専攻数値目標報告

(教育課程編成会議 2023 年 05 月 10 日承認)

| 通 番 | 部門 | 数値目標の項目 | 数値目標 | 結果 | 自己評価 | 次年度に向けての改善策等 |
|--------|------------------|------------------------------------|----------|--|---------------|--------------|
| 14 | 文学部音楽芸術学科 | 対外的成果発表件数 | 3 名 | 4 名 | 2_目標を達成した | |
| 15 | 生活環境学部生活マネジメント学科 | 2 級ファイナンシャル・プランニング 技能士の合格者数 | 10 人 | 11 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 16 | 生活環境学部生活マネジメント学科 | 教職課程を履修している学生の教員免 許状取得率 | 100% | 100% | 2_目標を達成した | |
| 17 | 生活環境学部生活マネジメント学科 | 公立学校の教員採用試験合格者 | 1 人 | 1 人 | 2_目標を達成した | |
| 18 | 生活環境学部生活マネジメント学科 | 公務員職への採用 | 1 人 | 5 人 | 2_目標を達成した | |
| 19 | 生活環境学部生活マネジメント学科 | 卒業までに学科指定の資格を 1 つ以上 取得する学生の割合 | 100% | 100% | 2_目標を達成した | |
| 20 | 生活環境学部環境デザイン学科 | 専門性を生かした分野における採用 | 58 人 | 75 人 | 2_目標を達成した | |
| 21 | 生活環境学部環境デザイン学科 | 衣料管理士 2 級資格取得率 | 履修者の 70% | 履修者の 100% | 2_目標を達成した | |
| 22 | 生活環境学部環境デザイン学科 | 繊維製品品質管理士の資格取得者 | 1 名 | 2 名 | 2_目標を達成した | |
| 23 | 生活環境学部環境デザイン学科 | 空間デザインコース関連資格の取得者 | 30 名 | 39 名 (商業施設士 5 名 /インテリア設計士 14 名/商業施設士補 15 名 /リビングスタイリスト 2 名/インテリアプラン ナーアソシエイツ 2 名/ インテリアプランナー 1 名) | 2_目標を達成した | |
| 24 | 生活環境学部環境デザイン学科 | 学外コンテストの受賞もしくは社会的 に評価された課外活動の件数 | 各コース 1 件 | 美濃和紙あかりアート展 1 件/造園コンクール 3 件/色彩コーディネート コンクール・ファッショ ン部門 1 件/カセラサラ フェスタ 2023 企業賞 1 件・入選 4 件/日本デザ イン学会第 3 支部 1 件/ 中部卒業設計展 NAF1 件 | 2_目標を達成した | |
| 25 | 生活環境学部食環境栄養学科 | 国家資格 (管理栄養士) の合格率 | 90%以上 | 95% | 3_目標を上回って達成した | |

2022 年度学科・専攻数値目標報告

(教育課程編成会議 2023 年 05 月 10 日承認)

| 通 番 | 部門 | 数値目標の項目 | 数値目標 | 結果 | 自己評価 | 次年度に向けての改善策等 |
|--------|----------------|--------------------------|-------|------|---------------|---|
| 26 | 生活環境学部食環境栄養学科 | 専門分野への採用率 | 70%以上 | 80% | 3_目標を上回って達成した | |
| 27 | 国際情報学部国際情報学科 | 国内旅行業務取扱管理者資格取得者 | 10 人 | 8 人 | 1_目標を達成できなかった | 難関資格であり、本資格に挑戦する学生数が減少傾向にある。学生に対して資格の有用性を説き、受験者数増加を目指す。 |
| 28 | 国際情報学部国際情報学科 | 総合旅行業務取扱管理者資格取得者 | 5 人 | 5 人 | 2_目標を達成した | |
| 29 | 国際情報学部国際情報学科 | 貿易実務検定 C 級合格者 | 3 人 | 10 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 30 | 国際情報学部国際情報学科 | 貿易実務検定 B 級合格者 | 2 人 | 0 人 | 1_目標を達成できなかった | 難関資格であり、本資格に挑戦する学生数が減少傾向にある。学生に対して資格の有用性を説き、受験者数増加を目指す。 |
| 31 | 国際情報学部国際情報学科 | 通関士資格取得者 | 1 人 | 0 人 | 1_目標を達成できなかった | 難関資格であり、本資格に挑戦する学生数が減少傾向にある。学生に対して資格の有用性を説き、受験者数増加を目指す。 |
| 32 | 国際情報学部国際情報学科 | 世界遺産検定 3 級合格者 | 30 人 | 46 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 33 | 国際情報学部国際情報学科 | 世界遺産検定 2 級合格者 | 10 人 | 4 人 | 1_目標を達成できなかった | 継続して受検する手立てや、自主勉強する環境を整える必要がある。また、受検料の負担も考慮して、必ず合格できる体制を整備しておく。 |
| 34 | 国際情報学部国際情報学科 | 世界遺産検定 1 級合格者 | 1 人 | 0 人 | 1_目標を達成できなかった | このグレードは今まで 1 名の合格者も出していない。とはいえ、この目標を掲げて、まずチャレンジする学生を増やしたい。 |
| 35 | 国際情報学部国際情報学科 | マルチメディア検定ベーシック合格者 | 30 人 | 32 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 36 | 国際情報学部国際情報学科 | I T パスポート試験合格者 | 5 人 | 17 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 37 | 国際情報学部国際情報学科 | 情報セキュリティマネジメント試験合格者 | 1 人 | 4 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 38 | 人間科学部現代子ども教育学科 | 公立の幼稚園教諭／保育士（臨時採用を含む）の採用 | 25 人 | 19 人 | 1_目標を達成できなかった | 当年度合格実績は、28 件でありうち 9 件は辞退であった。不合格者には一自治体のみ受験し 2 次試験で不合格となる例が散見された。次年度はキャリア支援センターと連絡を密にし支援を充実する。 |
| 39 | 人間科学部現代子ども教育学科 | 小学校または中学校の教員採用試験合格者（教諭） | 12 人 | 23 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 40 | 人間科学部現代子ども教育学科 | 小学校または中学校教員（講師を含む）の採用 | 10 人 | 22 人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 41 | 人間科学部現代子ども教育学科 | 保育士課程履修者中の保育士の資格取得率 | 100% | 100% | 2_目標を達成した | |

2022 年度学科・専攻数値目標報告

(教育課程編成会議 2023 年 05 月 10 日承認)

| 通 番 | 部門 | 数値目標の項目 | 数値目標 | 結果 | 自己評価 | 次年度に向けての改善策等 |
|--------|-----------------|------------------------|---------|-------|---------------|---|
| 42 | 人間科学部現代子ども教育学科 | 中学校課程履修者中の中学校教員免許状の取得率 | 100% | 100% | 2_目標を達成した | |
| 43 | 人間科学部多元心理学科 | 精神保健福祉士取得コース修了 | 7名中6名 | 6名中5名 | 2_目標を達成した | |
| 44 | 人間科学部多元心理学科 | 精神保健福祉士取得コース国家試験合格者 | 6名中4名以上 | 5名中4名 | 2_目標を達成した | |
| 45 | 人間科学部多元心理学科 | 専門分野における採用 | 8名以上 | 4名 | 1_目標を達成できなかった | 企業の採用活動の活発化、政府の賃上げ推奨により、企業への就職が増加した。近年就職先の拡大、多様化が進み、学科での学びを活かした企業採用となっている。県、市町村の心理職や病院、施設での援助職などの専門職についても、アナウンスやガイダンスを行っていききたい。 |
| 46 | 人間科学部多元心理学科 | 大学院・他大学進学 | 8名以上 | 4名 | 1_目標を達成できなかった | コロナ禍で専門の授業も遠隔であったこと、対面になってからもディスカッションなどが制限されたことなどから、更なる学習・研究に対する意欲が湧きづらかった。専門職への関心は高いが、求められるより高度な知識や能力のための教育の方法や更なる課題の設定なども考えていきたい。 |
| 47 | 人間科学部多元心理学科 | 社会調査士 資格取得者 | 30名以上 | 30名 | 2_目標を達成した | |
| 48 | 人間科学部コミュニティ福祉学科 | 社会福祉士国家試験の合格率(新卒) | 50% | 85% | 3_目標を上回って達成した | |
| 49 | 人間科学部コミュニティ福祉学科 | 初級障がい者スポーツ指導員資格取得者 | 30人 | 19人 | 1_目標を達成できなかった | 次年度の数値目標は、実態を反映するために、入学者数に対する受講希望者数の割合に変更して設定したい。 |
| 50 | 人間科学部コミュニティ福祉学科 | 中級障がい者スポーツ指導員資格取得者 | 3人 | 4人 | 2_目標を達成した | |
| 51 | 人間科学部コミュニティ福祉学科 | 准認定フェンドレイザー受験資格取得者 | 20人 | 28人 | 3_目標を上回って達成した | |
| 52 | 薬学部薬学科 | 第108回薬剤師国家試験の新卒合格者数 | 95名以上 | 103名 | 3_目標を上回って達成した | |
| 53 | 薬学部薬学科 | 第14回薬学共用試験の合格率 | 96%以上 | 95.8% | 1_目標を達成できなかった | 春休み、夏休みを利用した総復習の大切さと取り組みの遅れが最後まで響くことを学生により丁寧に説明し、かつ説明機会を増やし、前倒しで統合的な学習に取り組むことの重要性についての学生の理解と、それを実行することをより強く促す。 |

2022 年度学科・専攻数値目標報告

(教育課程編成会議 2023 年 05 月 10 日承認)

| 通 番 | 部門 | 数値目標の項目 | 数値目標 | 結果 | 自己評価 | 次年度に向けての改善策等 |
|--------|-----------------|-----------------------|-------|--------------|---------------|--|
| 54 | 文学研究科国文学専攻 | 学外学会誌投稿論文掲載、ないし学外学会発表 | 3 件以上 | 0 件 | 1_目標を達成できなかった | 修士中心の大学院としては、修士論文執筆前の院生に学外の論文、発表のみを活動目標とするのはやや非現実的であるため、数値目標を現実的に修正する。 |
| 55 | 文学研究科英文学専攻 | 国内外での学会発表、論文発表の数 | 1 本以上 | 0 件 | 1_目標を達成できなかった | 現在の在籍者の多くが通訳コース所属で実践を中心課題としていること、博士後期課程の学生がいないことなどから、なかなか学会発表等につながらない。2023 年度は、より実情に即した形になるよう博士前期課程の学生を主体とした目標を立てることとする。 |
| 56 | 文学研究科社会学専攻 | 学外学会誌投稿論文掲載、ないし学外学会発表 | 3 件以上 | 学外学会発表 3 件 | 2_目標を達成した | |
| 57 | 人間生活学研究科消費者科学専攻 | 学会発表 | 1 件以上 | 10 件 | 3_目標を上回って達成した | |
| 58 | 人間生活学研究科人間発達学専攻 | 学会参加率 | 80%以上 | 89.5% | 3_目標を上回って達成した | |
| 59 | 人間生活学研究科人間発達学専攻 | 専門職への就職（非常勤を含む）率修了年次生 | 80%以上 | 90% | 3_目標を上回って達成した | |
| 60 | 人間生活学研究科人間生活学専攻 | 学会発表もしくは学術雑誌への投稿 | 1 件以上 | 学術雑誌への投稿 1 件 | 2_目標を達成した | |

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

【看護学部看護学科】2022年4月開設

少子超高齢化、疾病構造の変化、ライフスタイルの変化、独居世帯や老老世帯の増加、在留外国人の増加、グローバル化による人々の社会・文化的背景、生活習慣・生活様式、価値観の多様化、災害への対応等、これらの要素が複雑に絡み合い、あらゆる人々・地域を対象とした看護ケアの充実を図ることの重要性が高まっている。このような背景を踏まえ、福音主義のキリスト教に基づく金城学院大学は看護学部看護学科を設置し、建学の精神である「世界の平和と人類の福祉に貢献する女性の養成」を継承し、教育スローガンである「強く、優しく。」を基盤とする看護学教育を行い、看護を求める人々にとって最善の利益となる看護ケアを提供することのできる、看護師、保健師を社会に送り出すこととした。

看護学部看護学科は、「豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることのできる優しさを備え、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることができ看護職者を養成する。」ことを目的としている。

看護学部開設初年度においては教育課程を設置計画通り実施し、開設2年目になって設置計画の教員全員が着任し、1年次、2年次の教育課程を実施し、設置の趣旨・目的の達成の実現に努めている。

【薬学研究科薬学専攻】2022年4月開設

薬学研究科では、薬学研究に貢献できる研究者や医療従事者を育成するため、高度な専門知識を基に創薬や医療などの研究現場において論点を整理して課題を設定できる能力、及び高い倫理性を担保した上で薬学研究を遂行し問題解決の達成に向けて取り組み解決する能力を修得させることを目的としている。

薬学研究科は開設して2年目を迎えたところであるが、2022、2023年度ともに、定員の2名の入学者を確保することができた。講義、演習科目は予定通り実施され、その他のイベントもおおむね予定通りに実施され、設置の趣旨や本研究科の目指す目的に向けて良好なスタートを切る事ができたものと考えている。

今後も設置の趣旨や目的に鑑み、継続して教育・研究活動を展開していく。